

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立東小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

豊かな心を持ち、自ら学び、実践力のある子どもを育てる。

ともに学び子 認め合う子 たくましい子

今年度の指導の重点

基礎・基本の徹底と思考力・判断力・表現力の育成を図り、ともに学ぶ喜びと達成感を味わわせる指導に努める。  
豊かな人間性を育み、互いの人権を大切に、誰とでも仲良くできる子どもの育成に努める。  
心と身体のとくましさを持った子どもの育成に努める。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国

国語では、A「知識」に関する問題の正答率は県平均を上回り、B「活用」に関する問題の正答率は県平均よりもかなり高い。  
算数のA「知識」、B「活用」、理科ともに正答率は県平均より高い。  
国語Aでは、「言語についての知識、理解、技能」の観点の正答率が高い。(本校84.7%、岡山県76.9%)  
算数Aでは、「数と計算」領域の正答率が高く、「8.9-0.78の差の概算の結果選択」では県平均をかなり上回っている。(本校86.8%、岡山県73.7%)  
国語A、算数Bともに、「記述式の問題」の正答率が高い。  
算数Aでは「時刻を求める」問題、算数Bでは「比」の問題に課題がある。  
理科では「自然現象についての知識、理解」観点の正答率が高く、「観察実験の技能」観点の正答率が低い。

県

数学については県平均と同程度。基礎問題については県を上回り、特に計算問題や単位量あたりの問題に成果が見られる。しかし、活用問題には課題がある。  
国語、社会、理科については県平均を下回る。  
社会以外の3教科では無回答率が県に比べて低い問題が過半数以上あり、粘り強く取り組む姿勢が見られるが、後半の問題で無回答率が高くなる傾向が見られる。  
昨年度は社会の「資料活用の技能」の観点において県を下回ったが、今年度は県より高い。

【学習状況調査の結果】

平日に、ゲームを2時間以上する児童の割合とテレビ・ビデオ等を2時間以上視聴する児童の割合は、ともに県平均よりかなり低い。  
家庭学習では、平日の学習時間が30分以下の児童の割合が県平均よりも低いが、復習・予習に取り組む児童の割合が昨年度に続き県平均を下回っている。  
読書に平日30分以上取り組む児童の割合は県平均をかなり上回っている。  
(本校52.8% 岡山県38.8%)  
「近所の人に会ったときは、挨拶している」に肯定的な回答をした児童の割合が県平均よりも高い。  
(本校94.9% 岡山県92.7%)  
「学校に行くのは楽しい」に肯定的な回答をした児童の割合は、県平均より高い。  
授業における「めあて・まとめ」に関する肯定的な回答が全国平均を上回っているが、「学習内容の振り返り」については全国平均を下回る。

成果と課題

国語の漢字問題の正答率が高く、朝学習や「漢字オリンピック」等の取組の成果が見られる。  
算数では、「授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合が高く、少人数指導により基礎的・基本的な学習内容が定着してきている。  
授業において書く活動をしっかり取り入れることにより、記述問題の正答率が高くなっている。  
理科では、学習内容によって、日常使わないような知識・用語の定着に課題が見られる。  
社会科では中学年で学習した内容に課題が見られる。また、昨年度は「資料活用の技能」の観点において県を下回ったが、今年度は県平均より高く、改善が見られた。  
自分で計画した勉強や復習や予習に取り組める児童の割合は県平均より低く、改善が必要である。

課題に対応した改善方法

学期ごとの漢字力テスト・計算力テストや朝学習・家庭学習などを活用し、漢字・計算等の基礎学力のさらなる定着を図る。  
週末課題に「言葉のきまり」プリントを出す等、現在の学習内容以外の既習内容の復習に取り組む。  
特に、社会科と理科では下学年の学習内容の復習をプリントの活用等により意識的に取り入れる。  
文章の量や条件を指定して、自分の考えを書いてまとめる活動を様々な教科で取り入れる。  
問題解決型の授業展開を工夫し、自分の考えを説明したり友達との発言をつなげて説明したりする場づくりを、授業研究を通して充実を図る。  
4教科の学習到達度確認テストを計画的に活用し、特に活用問題は重点的に扱う。  
昨年度より取り組んでいる自主学習ノートの取組を充実させ、自分で計画して復習や予習に取り組む習慣を作る。  
中学校区の生徒指導重点「チャイム、掃除、挨拶・返事」に家庭や地域と連携して実践的に取り組む。

取組の検証方法及び検証時期

発表や書くことに関するがんばりの児童アンケートを期日を決めて実施する。(学期ごと)  
宿題調べを毎日行い、学期に2回ずつ評価し、個別指導を中心に取り組む。(学期に2回)  
学習到達度確認テストの実施日を計画し、確実に実施する。(学期ごと)  
漢字と計算の定着を確認するテスト(漢字オリンピック、計算オリンピック)を作成し実施する。(学期ごと)  
児童会を中心とした挨拶運動を実施する。(毎月)  
挨拶・返事について児童アンケートを期日を決めて実施する。(学期ごと)

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

授業における「めあて・まとめ」「振り返り」に肯定的な回答をする児童の割合が県平均を上回る。  
宿題をする児童の割合を100%に近づけ、復習してくる児童の割合が県平均を上回る。  
全学年、学習到達度確認テストを完全に実施する。  
漢字の書き取り定着率を80%、計算定着率90%を目指す。  
自主学習ノートの提出率80%を目指す。